



*Edition Another View*

位相

Baffiné

出来事は変わらない。

けれど、人が立つ位相によって、  
その意味は何度も姿を変える。

これは、時間が癒すという話ではない。

前向きになれば意味が変わる  
という物語でもない。

出来事を乗り越えたかどうか  
を測るための言葉でもない。

切なさが懐かしさに変わるのは、  
感情が整理されたからではない。

糧になったように感じるのも、  
出来事が役立ったからではない。

意味が変わったのではなく、  
意味を受け取る側の位相が移動しただけだ。

人は、同じ場所に立ち続けたい。

時間を生きるということは、  
位相を移動し続けることでもある。

低い位相では、出来事は痛みとして迫る。  
距離が取れないため、輪郭が鋭く、感情が先に立つ。

少し離れた位相では、出来事は記憶になる。  
触れられるが、呑み込まれない。

さらに位相が変わると、出来事は素材になる。  
自分を形づくった一部として、静かに組み込まれていく。

意味は、出来事の中にあっただのではない。  
位相の移動によって、後から立ち上がったものだった。

過去は変わらない。

けれど、過去が果たす役割はひとつではない。

切なさも、懐かしさも、糧も、意味も、  
すべて同じ出来事から立ち上がっている。

それらは矛盾せず、同時に存在できる。

人が生きているかぎり、位相は止まらない。  
だから出来事は、何度でも別の顔を持つ。



意味は、振り返った場所ではなく、  
いま立っている位相から、静かに現れる。



R.

Edition — 存在の本質  
別景：位相

著者：美学思想家 古川玲奈  
発行：Raffiné  
2026